

三隅地域協議会と議会との意見交換会記録

令和4年7月28日(木)

20時5分～21時10分

三隅支所 集会室

【出席議員】肥後議員、三浦議員、柳楽議員、小川議員、牛尾議員、笹田議長

次第

1 開会

2 地域協議会会長挨拶

3 議長団挨拶

4 自己紹介

5 意見交換

テーマ：人口減少、生活支援について

6 地域協議会副会長終わりの挨拶

7 閉会

【議事の経過】

[20時 05分 開議]

2. 地域協議会会長挨拶

肥後議員
会長

地域協議会会長からご挨拶いただく。

大変お忙しい中、また新型コロナウイルス感染症がこれまでにない流行を見せている中で、このような機会を設けていただき、中止にもならず開催できることを大変喜んでいる。

昨年度に引き続き、市議会議員との意見交換会であり、年に1回だが大変楽しみにしている。本日はよろしく願います。

昨年度もたくさんの意見を持ち帰っていただいた。本日も委員の思いをしっかりと受けとめていただき、課題解決につながるような意見交換会になればと思っている。コロナ禍なので議員との距離が遠いが、有効な時間にしていただければと思う。

3. 議長団挨拶

肥後議員
笹田議長

議長の笹田からご挨拶申し上げる。

挨拶の前に、今日は皆ご存じのとおり浜田高校が18年ぶりに甲子園を決めたということで喜んでいる。ピッチャーは三隅の子で、ぜひ応援していただきたい。

地域協議会との意見交換会は今回2回目だが、昨年うちにぜひ来年もと言っていた。今回開催に当たり、宿題をいただいたので、それについて私から回答させていただく。

まず一つ目、この意見交換会を開催する目的だが、コロナ禍でなかなか地域の声が聴けない、開催できなかった。地域の代表である皆と地域のことについて協議し、議会の運営についてしっかり考えさせていきたい思いで開催させていただいている。

2点目に、昨年どういう効果があったかだが、地域協議会との意見交換会でいただいた意見を個人一般質問に取り上げた議員もいるし、各地の課題、意見を議会で集約して、全議員で考えた。ただ、すぐに解決する問題は少ないが、少しでも解決できるよう議会としてもやっていきたいと思っている。

今回新たに3人の方が委員として来られているので、ぜひ新たな意見を気負わず言っていただきたい。短い時間だがよろしく願います

る。

4. 自己紹介

肥後議員

各議員を紹介させていただく。

《 以下、議員自己紹介 》

肥後議員

では地域協議会委員の皆にも、一言ずつ自己紹介をお願いします。

《 以下、地域協議会委員自己紹介 》

5. 意見交換

人口減少、生活支援について

肥後議員

発言者は挙手をお願いします。

委員

中山間地に住んで一番困っているのは、生活そのもの。買い物をどうするか。今は毎週水曜日にまちづくりセンターで弁当をつくり、見守りを兼ねて独居老人世帯へ配達するボランティアを地域民がやっている。それだけでは生活ができない。生活雑貨も必要である。生活交通をどのように組み立てるかができてないのが実情である。まちづくりコーディネーターに加えて支所の担当支援制度によって、今後を担う若者を交えて地域の生活弱者をどう救っていくかをテーマに取り組みねばいけないのでは。島根県でプロジェクトが進んでいる。これも同じようにアドバイザーとコミュニケーションを図る方が必ず2人セットで来られる。まちづくりコーディネーターと市職員との若者とで、生活弱者をどのように盛り立てていくか、執行部が動いてくれるようぜひお願いしたい。

また、市の交付金が浜田市の事業者でないとつかない。隣接した益田や江津の業者では交付金対象にならない。移動販売の問題点は初期投資が400万円程度かかるので、なかなか通常ではできない。今やっている人を協力者に仕立てるようにしていかないといけない。ぜひ見守りを強化する、交付金の問題、初期投資の補助も幾らかやっていただき、地域の生活弱者に貢献できるようになればよい。

肥後議員

今の発言について議員側で発言したい人は。

三浦議員

今、総務文教委員会で地域公共交通の問題点を執行部とどういう形がよいか協議している。井野の事例が、どのように広域でできるか、もちろん地域の実情を踏まえての話になるが、自治会輸送などと一緒に、地域をどうやって維持していけるか、担い手をどう確保

していくか、こういったことは地域を超えて考えていかないといけない。その考え方は江津や益田など、隣接地域とも考えていかないといけない。例えば路線展開する際に新しい車両を仕立てる必要があるか、あるいは民間事業者がサービス提供をしていくとなると、ビジネスとして成り立つかどうかという視点が大きく入ってくるので、行政としてどうやって資金提供するのか、あるいは補助をするのか。行政がみずから仕立てるのは難しいと思うので、民間の力を借りながら、補助制度の拡大などを考えていかなければいけない。

まちづくりコーディネーターの話だが、例えばコミュニティナースの方々がかかわりながら宅配や販売の事業をすることに加え、三隅では福祉の観点まちづくりの中に組み込まれている。これはほかの地域にも転用していく発想だと思っている。まちづくりコーディネーターの中にコミュニティナースも入ってもらっていて、三隅モデルを浜田市に展開していく。こうしたことが求められていくと思うし、そういう展開をしていく必要があると思っている。

委員会の中でも引き続き議題に上げて検討していきたい。

委員

人口減少と少子化問題について。私も昨年から前期高齢者の仲間入りをして、金もかかる、年金も増えない中で、仮に60歳で退職すれば年金支給開始までの5年間はなかなか厳しいのが現実だと実感している。浜田の平均寿命そのものは県内ではかなりレベルが低い。かつ、健康寿命も3、4歳くらい下がっている。しかし男性なら70歳、女性なら75歳近くの方が健康寿命を維持されている。それは努力によるのだろう。65歳から70歳までは健康に働けるのでは、という発想もできるのかなと思いたい。では現実として5年間どういった活躍の場があるのか。事例や方向性があれば参考にしたい。

生きがいや幸せが実感できる健康寿命を延ばしていこうという政策があるかと思う。その中で医療面あるいは技術面の進歩により病死率が少なくなっている。例えばがんや脳卒中、場合によっては自死、心臓疾患、呼吸器疾患などは改善していると思う。しかし20歳以上の方で地域活動、グループ活動に参加する意欲、実際にしている方の、目標値に対する自己評価はD。なぜなら、参加したくないという意思の方が多いいのかなと。地域の人たちとのつながりがあると実感している、連携が取れていると実感している部分についてもD評価。目標の半分以下。まちづくりを声高らかにやっている現実

とは裏腹に、若者、高齢者を支えなければいけない人たちの意識そのものは実際どうなのか。退職後5年間はまだ頑張れるのではないかと、事例があれば教えていただきたいのと、若い人たちの心、行政的に地域で、あるいは何かの拠点の中でこうしたことを説明されて指導しているのか。我々はまちづくりでいろいろなアイデアを練っているのだが、そのメンバーの平均年齢は75、76歳である。これから事業を継続していくのに、若い後継者を含めてそういう問題も確実に出てくるので、議員として何かご意見をいただきたい。

牛尾議員

60歳以上の雇用の問題について。これは民間でも人手不足の状況の中、私の周りでは再雇用といった形で大体70歳くらいまで仕事されている。70歳以上で定職に就くのはなかなか難しいのが一般論では。ただ、シルバー人材センターは今結構売り上げを上げている。コロナ禍で制限はあるようだが。

三隅地区は早くから健康に関心があり、市内では恐らく一番健康寿命が高いのでは。高齢化率は合併して以降、弥栄が50%を超えており、旭・金城・三隅はほぼ同レベルで推移している。この十数年で10%くらい上がっている。元気で長生きして仕事があればよいが、十分に働ける仕事は正直ない。では職場を行政がどうやってつくれるか、というのもなかなか難しい。中山間地での困り事が結構あるので、それを何人かで起業されて、支援する事業を考えれば、市から若干の補助金が出るはず。旭町では移動販売車を買うのに100万円は補助金で出たはず。まんてんは移動販売車を1台持っている。買い物難民は旧浜田市でもそこら中にいる。将来的にはその辺をどうやっていくか。沖縄にある協働売店というのも一つの考え方なのだろう。移動販売車をエリアごとに順番に持っていく。それを誰がやるのかという問題もあるのだろうが。例えば地域のまだ元気な高齢者数名で組んで、1週間いろいろな地域を回っていく。その立ち上げの車代などを例えば市が支援する。そういうことは可能である。移動販売の悪いところでよく聞くのは、自分のエリアはいつも最後に来るから欲しいものは全部売れて、欲しくないものを買わなければいけないという苦情がある。この問題は地域内で皆が助け合いながら何ができるかという、一つの案が出ればそれに対して市が幾らか支援して、その地域で成り立つような循環型の生活ができれば、まちづくり委員会などで案をまとめて、提案してもらうのが一つの考え

方かと思っている。いずれにせよ、今は路線バスがなくなったために親が子どもを学校に送迎しなければ通えないといった事例が増えている。子どもでさえそういうことが起こっている。浜田市とすればそういうことも含めて全体的に見直して、少しずつできるところからやっていかないといけないところに来ていると思う。

委員

買い物難民ではなく、買い物弱者と言っていたほうがよい。

牛尾議員

僕は美川出身だが、美川には商店が1件もなくなった。周布川を下ればトライアルがあるが高齢者は行けない。買い物難民と称したら連合自治会長から、難民と呼ぶのはやめてくれと言われた。買い物弱者という言い方に訂正させていただく。

肥後議員

ほかに。

委員

景観をよくするまちをつくろうということだが、三隅では田畑が荒れている。大きなイノシシも出る。これを果たして誰がやるのか。洗濯物も干せない状況で、市にお願いして草刈りなどをしようと思うが、所有者がどこにいるかわからない。これを突きとめるのも時間がかかる。せつかく所有者を見つけても、他人事で僕らに任せると言われる。今まで地域の美化を担っていた世代が亡くなり、今は手掛ける人がいない。山奥も田畑も荒れ放題。

役員もなり手が無い。皆高齢になるとほとんど何もできない。人口減少問題はすごくのしかかっている。今の状況をどうにかしないと立ち直れるのかと。放棄地の中で何かできるものはないかと考えている。川本とか美郷のほうではエゴマが売れている。あるいは小麦がないので、それを育てれば売れるのではという考えも持っている。米より小麦は楽。こういうことを今からはやっていかなければいけない。

牛尾議員

浜田市全域で田も畑も荒れている。最近の事例だと、日本の水稲自給率は今年現在が98%。2035年度では14%見込みだと言われる。13年後には日本国内で生産された米を食べられなくなる。今、国が求めているのは、ロシア・ウクライナ情勢問題で小麦が大変だということなので、荒れた田に麦を作付してもらうことである。ただ、水稲の専門家に言わせると麦をつくるのは難しいと。むしろ水稲で飼料米をつくったほうが楽だと。もう一つ言えば、小麦のパンでなく米粉のパンを食べればよいではないかと。米粉をつくる機械が高い。その高コストの機械代を税金で補助して、生産農家に使ってもらうなど

すれば、また米粉が普及していくのかと。つくりやすいのが水稲。ただ、今は1俵6千円で買ってもらった赤字が1万円だと言われている。1俵つくって1万円赤字が出るような米を、今の人は我慢してつくっておられるが、5年後にそれはできないと思うので、自給率を国にもっと真剣に考えてもらって、飼料米を伸ばして米粉をもっと日本に普及させる。日本の食生活を変えていく。もう一つは休耕田に小麦を植えていく。日本の農業政策を根底から変えていくようなことをしていかないと、実際には変わらない。地元から参議院議員も衆議院議員も出ているので、国家の農業政策を根底から変えていただきたい。そういう要望を市議会からも上げていくべきではと思う。

もう一つ、若者が少ないというのはどこもそう。今は誘致企業をしてもなかなか来ないし、流れ作業の誘致企業をしても皆嫌がってやめる。想像力を生かして働けるような会社をどう誘致するか。国内でも競争が激しいので、今言われている浜田沖の天然ガスがもし軌道に乗れば、島根県に新しい業が起きるのではと予測で言われているが、そういったものがないとなかなか難しいのでは。浜田は20歳から24歳が少ない。日本全国田舎は皆東京へ出ていくので、人は足りない。国が産業行動を変えてくれないと。地方だけの力では難しい。そういう声を地域から上げていく必要があるのだろうと思う。

ほかには。

市の取り組みに定住もあると思う。U I ターン者による地域活性化はもう現実的でない。どれほど努力しても解決できるか疑問がある。その集落の住民がたった1人になってもそこで暮らし続けたいという要望は現実にあると思う。そういった最後の人たちが安心して暮らせる環境をつくっていくことを考えていく必要があるのでは。道路が整備され、光ケーブルによって情報が整備される。それさえそろえば、元気な人なら不自由なく暮らせる。高齢者になると移動手段がなくなって、なかなか不便な点が出てくる。人を移動させるのではなく、移動しなくても生活できるように。例えば移動販売は巡回しているが、事前に注文を受ける。週に1回なら1回、そこにまとめて必要なものを届けるようなサービスとか。コミュニティバスよりもデマンドで必要なときに行ける体制。行政についても行政サービスを支所に行くのではなく出張サービスができるかを考えられないか。一つ一つのサービスを業者や団体で行おうとすると人口密

肥後議員
委員

度が少なく採算が取れないというのが一番にあるだろう。サービスを複合して民間事業をつくる。いろいろなサービスを一つの会社がまとめてやるので採算性も上がる。そういうことの必要性、今後すぐできるとは思わないが、山間地域はそういうものがないと暮らしていけない。生活基盤がなくなっていく。施策として何かできないかを研究してもらい、最後の1人になっても暮らしていけるよう考えていただきたい。

三浦議員

1人になってもそこで暮らしていける、そういうインフラを提供していける、そういった行政サービスが必要だと思う。例えば岐阜県だったか、新聞配達されている会社が、新聞配達だけでなく物を届けるサービスをしていると捉え直し、違うものを配達する。あるいは今、旭町の和田地域から、ガソリンスタンドを残してほしいという要望が出ている。ここも給油だけでなく、人が集まる拠点と考えるとまちづくりに生かしていく。物事をどんどん複合化しながらサービスを提供していく。こういった発想は進めていくべきだと思う。誰がそれをやるのかが大きな問題になってくる。後継ぎ問題もどの地域でもある。人材確保をどうやっていくかを考えていかないといけない。人が少なくなっていく根本的な問題の一つは、帰ってこいと言う人が少ないのも理由の一つだと思う。どんどん言えば、いろいろなチャンスが転がっていて、それをつかみに行くと思う。しかし一方で、地域に残るという選択肢を与えず外に出してしまうのは公平ではない。そういうタイミングで、教育の段階で地域をフィールドにししながら自分の探究活動をする、学びの場をつくるといったことは必要なだろう。その中で地域をしっかり知る時間をつくりながら、周りも見て、そこで自分の進路を決めていくといった環境を、これからの子どもたちにはつくっていかないといけない。地元に残らなければならないといったプレッシャーを与えるのは、これも個々のキャリアを考えると正しいかどうか判断が難しいが、少なくともこの地域で暮らすという道を彼ら彼女らにとって選択肢の一つと考える機会提供は、我々がやっていかなければいけない。

委員

狭い範囲ではなく全体を一つと考えて対処できるようなもの。例えば雇用が生まれれば若者が働ける。地域の中でも小さい単位で考えるのではなく、市全体として大きなことをできるようにつくっていかないと、地域ボランティアにはもう限界がある。利益を生んで

雇用もできて、という形を考えていく必要がある。

三浦議員

これは個人の意見だが、今の行政サービスの提供の仕方を根本的に考え直さないといけないと思っている。地域の状況が変わっているわけなので、その変化に行政サービスがどうかかわるのが適切なのか、考えないといけない。行政だけが地域のサービスを提供するのではなく、地域の方々と協働するか。例えば1人になっても暮らし続けていける、そういう人をサポートするかは行政だけが考えることではないし、地域と一緒に考える。その中で民間サービスを提供している事業所の活力をどう使うかが、すごくポイントだと思う。その際、例えば隣の益田市、江津市にこういう事業者がいるが浜田ではないから補助対象にならない、ではなく、そういう規制をどのように柔軟にしていくかが、行政にはできる可能性があると思う。柔軟な発想を持ちながら、垣根を取り払える議論ができるように。そういう提案を我々はしていかなければならない。行政サービスは今も苦しい中でやっていると思うが、それだけでは地域から将来への不安の声が上がっている以上、今のままではじり貧になることが見えているので、抜本的な面をどう緩和できるか、どうやれば新しいアイデアが入ってこられるかは、柔軟に考えなければならない。

牛尾議員

旧浜田は二つの例がある。一つは浜田折居。町内で週2回、2人が交代で買い物と病院へ独居の方などを乗せて回っている。もう一つ、浜田井野は県が地域に車両を1台貸して、地域の方が運転して病院や買い物へ行っておられる。地域にそういう熱心な方がおられるから成り立っているが、先ほど言われたように浜田市全体をカバーするのはなかなか。キヌヤは半径500メートル以内に無料で配達していた。ところがペイしないからやめた。おっしゃることはすごくわかるが浜田市全体を巻き込んでいろいろなサービスを総合的にやって、利益を出せるなら誰かがもうやっていると思う。目の前の課題を解決しようと思うとエリアごとにそういうことをやっている事例があるので、とりあえず検討して、市が支援するのが一番近道ではないか。たちまちにはならないので、地域でこういうことをやりたいのだからどうだろうかと言われるほうが近道では。

委員

すぐ取り組めるものもあるし、20年30年先を見越して考えていてほしい思いもあって言わせていただいた。

肥後議員

時間が迫ったのでこのあたりで終えたいが。

委員	<p>17番。高校生からよく出る意見が、放課後や部活後に汽車の待ち時間が1時間、1時間半ある。1時の部活に出るのに12時に出て3時に終わって5時に帰ってくる。弁当を食べる場所が欲しい。理想は江津のパレットのようなところがあればよい。今の高校生が将来浜田に住みたいか。自分たちが高校に通うのも大変な思いをしたようなところに誰が住みたいか。難しいのでは。</p>
牛尾議員	<p>今私が受けている相談が、金城の子どもが来年浜田商業に行きたいのだがルートがない。矢上に行くのは邑南町が支援していて、バスが迎えに来るらしい。しかも石橋町長はバス代まで支援している。矢上高校に通ったほうが近い。しかし本人は浜田商業に行きたいのだと。これから若い人が頑張ろうとしていても、交通事情のせいで自分の行きたい高校に行けない。そういう現状がある。何とかしないといけないので、今日、議員連盟が三浦議員を中心に立ち上がった。浜田市としても現状を見て、金城には13人子どもがいるが、8人は浜田市以外の高校に行っている。送り迎えがある。5人が浜田商業に通っている。それは親が送迎している。高校に行く時点ですでに自分の進路を制約されている現状があるので、これは何とかしないと、だんだん各高校の生徒がいなくなる。今後努力していきたい。</p>
肥後議員	<p>時間となったのでこの辺で終了させていただきたい。</p>

6. 地域協議会副会長終わりの挨拶

肥後議員	<p>閉会のご挨拶をいただきたい。</p>
副会長	<p>我々委員も、地域の意見を集約してここに集まっているわけではないし、個人的な思いも含めての意見が出たと思う。我々の立場からすると市政に反映させるのは難しいという思いがあるが、議員は議員活動の中で調査研究していただき、今日出た意見をぜひ市政へ反映させるよう支援していただきたい。それが叶えば、こういった意見交換会は有意義なものである。お願いする。</p>

7. 閉会

肥後議員	<p>今日いただいた意見は全員協議会の場で、全議員に共有する。以上をもって三隅地域協議会と議会との意見交換会を閉会する。</p>
------	--

[21時 10分 閉議]